

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年8月14日

【四半期会計期間】 第21期第1四半期(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

【会社名】 株式会社FRONTEO

【英訳名】 FRONTEO, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 守本正宏

【本店の所在の場所】 東京都港区港南二丁目12番23号

【電話番号】 (03)5463-6344(代表)

【事務連絡者氏名】 経理財務統括部長 國枝宏美

【最寄りの連絡場所】 東京都港区港南二丁目12番23号

【電話番号】 (03)5463-6344(代表)

【事務連絡者氏名】 経理財務統括部長 國枝宏美

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第20期 第1四半期 連結累計期間	第21期 第1四半期 連結累計期間	第20期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (千円)	2,111,418	1,473,397	7,215,270
経常損失 ( ) (千円)	101,909	506,572	1,292,518
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失 ( ) (千円)	345,460	453,078	1,701,317
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	194,162	80,021	1,190,843
純資産額 (千円)	6,369,905	5,001,857	5,050,051
総資産額 (千円)	12,396,694	9,014,016	9,145,229
1株当たり四半期(当期)純損 失金額 ( ) (円)	8.79	11.52	43.27
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	50.2	53.1	53.1

(注)1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があることと認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当社グループは「Bright Valueの実現～記録に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、情報社会のフェアネスを実現する～」という企業理念のもと、独自開発の人工知能(AI)エンジン「KIBIT(キビット)」を活用した高度な情報解析技術を駆使し、祖業である国際訴訟支援、不正調査から製造、金融、小売、流通、そして医療分野といった様々なフィールドで、必要かつ適切な情報に出会えるフェアな世界の実現及び社会課題の解決に貢献しております。

各事業の当第1四半期連結累計期間の活動状況は以下のとおりです。

#### (AIソリューション事業)

ライフサイエンスAI分野の中のAI創薬領域においては、当第1四半期連結累計期間に、“Drug Discovery AI Factory”(以下、DD-AIF)事業の立ち上げ準備を進めました(2023年7月12日付で事業を開始いたしました)。

現在の医薬品開発においては、研究の最上流である標的選定のプロセスでのAI活用が進んでいないことが重要な課題となっております。新たに開始するDD-AIF事業では、このAI活用の進んでいない標的選定のプロセスにおいて、当社の創薬研究者が、自社開発のAIエンジンやAIアプリケーションを駆使して、顧客の創薬研究の効率化・加速化・成功確率向上に貢献する解析と提案を継続的に行う、新しい創薬支援サービスを提供してまいります。また、当第1四半期連結累計期間において、当社の創薬研究者が、日本毒性学会学術年会にてFRONTEO独自の創薬テクノロジーメソッド(Drug Discovery Best Known Method 以下、DD-BKM)を駆使した研究内容を発表いたしました。発表内容に活用したAI解析技術は、臓器毒性発症リスク因子探索から創薬における新規性の高い薬効標的探索での重要な仮説生成に至るまで、幅広く応用可能なアプローチであり、標的選定のプロセスにおけるAI活用の促進に効果的と考えております。顧客である医薬品開発関係者のニーズを的確に捕捉し、必要なアウトプットを継続的に提供することで、DD-AIF事業の推進を加速してまいります。

続けて、AI医療機器領域における、「会話型 認知症診断支援AIプログラム」に関しては、会話の音声を入力データとするプログラム(自動音声書き起こし機能付きプログラム)の開発を着実に進めております。開発プロセスで収集された質の高いデータセットや開発ノウハウを活用した民生品につきましても並行して開発を進めております。当第1四半期連結累計期間において、千葉県流山市で開催されたイベント「まちの縁側保健室カフェ」に参加し、一般の参加者や高齢者ケアの専門家に民生品のデモシステムを体験していただくなど、研究開発・提供を通して、医療・介護課題の解決と患者・高齢者のQOL(Quality of Life)向上に貢献してまいります。

なお、「統合失調症診断支援AIプログラム」及び「うつ病診断支援AIプログラム」などその他の製品につきましても、順調に開発を進めており、開発パイプラインの拡充を図ってまいります。

ビジネスインテリジェンス分野につきましては、当第1四半期連結累計期間の売上高は堅調な立ち上がりとなりました。企業のDX推進により前年度から引き続き旺盛な需要があり、特にコンプライアンス対応のための投資ニーズは高いと考えております。その中で、2023年3月に発表した平時監査システム「KIBIT Eye(キビット アイ)」は、当第1四半期連結累計期間においても連結売上高に貢献しており、現在も複数の企業との間で導入に向けた協議を継続しております。

また、当第1四半期連結累計期間において、日本郵政株式会社がグループ全社を横断して推進する「コエ活プロジェクト」において、「KIBIT Knowledge Probe(キビット ナレッジ プローブ)」が活用され、ガバナンス体制強化に取り組んでいる事例を発表するなど、当社AIの社会実装は着実に進捗しております。

さらに、製品開発においては、「KIBIT WordSonar for VoiceView（キビット ワードソナー フォー ボイスビュー）」、「KIBIT WordSonar for AccidentView（キビット ワードソナー フォー アクシデントビュー）」を始めとした各製品の開発・改良が順調に進捗しており、顧客のニーズをとらえたアウトプットを提供することで、事業を推進してまいります。

経済安全保障分野につきましては、最先端技術のデュアルユース（軍民両用）や、サプライチェーンにおける人権リスクの有無に対する懸念が高まる中、自社や取引先のサプライチェーンなどの健全性の評価、最先端技術の情報漏洩対策が急務となるなど、官庁と民間企業双方での経済安全保障への関心は一層高くなっており、当社へのお問合せは増加傾向にあります。当第1四半期連結累計期間においては、サプライチェーン解析AIソリューションにおけるベクトル化技術の特許査定を取得するなど、事業の本格化に向けて進捗しております。引き続き、各所各社のニーズを把握し、的確なソリューションを提供することで事業の拡大に努めてまいります。

（リーガルテックAI事業）

リーガルテックAI事業は、顧客基盤拡大のために、当社ポータルサイト「FRONTEO Legal Link Portal」、勉強会、ウェビナーなどのマーケティング活動は積極的に推進しておりますが、売上高への貢献には時間を要しており、当第1四半期連結累計期間の売上高は、前第4四半期連結会計期間と同程度の低水準な立ち上がりとなりました。年間での売上目標達成に向けて、マーケティングや営業の活動量を積極的に高めてかつ営業の仕組化を組織に浸透させることで顧客基盤を拡大し、大型案件の受注数の増加につなげ、売上高の回復に努めてまいります。

各事業の当第1四半期連結累計期間のセグメント別および連結業績の概況は以下のとおりです。

なお、当第1四半期連結会計期間において、ライフサイエンスAI分野の売上高の一部をビジネスインテリジェンス分野に移管したことに伴い、前年同期の数値を移管後の数値に組替えて比較しております。

また、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に反映させるため、全社費用の配分基準の見直しを行ったことに伴い、前年同期の数値を変更後の数値に組替えて比較しております。

（AIソリューション事業）

ライフサイエンスAI分野につきましては、DD-AIF事業の立ち上げを進めており、ビジネスモデルを標的分子探索の受託ビジネスへシフト中であるため、売上高は28,330千円（前年同期比69.2%減）となりました。

ビジネスインテリジェンス分野につきましては、前期に取り組んだ営業体制の強化の効果により売上パイプラインが堅調に積み上がり、売上高は431,015千円（前年同期比0.9%減）と概ね想定通りの結果となりました。

その結果、AIソリューション事業全体の売上高は460,669千円（前年同期比13.1%減）となりました。営業損益につきましては、前期下期の人的投資に伴う費用増や経済安全保障分野に関する投資により、229,819千円の営業損失（前年同期は6,541千円の営業利益）となりました。

サービスタイプ別の売上高の概況は下表のとおりです。

（単位：千円）

サービスタイプ別		計
AIソリューション事業	ライフサイエンスAI	28,330 (92,089)
	ビジネスインテリジェンス	431,015 (435,327)
	海外AI	1,323 (2,821)
AIソリューション事業売上高 計		460,669 (530,238)

（ ）は前第1四半期連結累計期間の実績

## (リーガルテックAI事業)

リーガルテックAI事業につきましては、eディスカバリサービスにおいて大型案件の受注が低調に推移したことに加えて、前期に行った戦略的な非AIビジネスの削減により前年同期比で売上高が減少いたしました。

その結果、売上高は1,012,728千円（前年同期比36.0%減）、売上高の減少に伴い1343,303千円の営業損失（前年同期は174,170千円の営業損失）となりました。

サービスタイプ別の売上高の概況は下表のとおりです。

サービスタイプ別		計
eディスカバリサービス	Review	296,990 (378,475)
	Collection, Process	78,851 (168,723)
	Hosting	480,603 (736,345)
	計	856,445 (1,283,543)
フォレンジックサービス		156,283 (297,636)
リーガルテックAI事業売上高 計		1,012,728 (1,581,180)

( )は前第1四半期連結累計期間の実績

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高1,473,397千円（前年同期比30.2%減）、営業損失573,122千円（前年同期は167,629千円の営業損失）、経常損失506,572千円（前年同期は101,909千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失453,078千円（前年同期は345,460千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）と前年同期を下回る結果となりました。なお、リーガルテックAI事業の自社利用ソフトウェアの一部について今後の利用停止が決定したことにより、90,408千円の減損損失を特別損失として計上しております。

## (2) 財政状態の分析

## (資産)

総資産は、前連結会計年度末と比べて131,213千円減少し、9,014,016千円となりました。流動資産は、前連結会計年度末と比べて178,591千円減少し、3,484,547千円となりました。これは主に、現金及び預金が360,375千円増加したものの、売掛金及び契約資産が63,100千円、未収入金が446,670千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べて47,377千円増加し、5,529,468千円となりました。これは主に、減損処理によりソフトウェアが90,408千円減少したものの、為替の影響でのれんが65,227千円、顧客関連資産が56,700千円増加したことによるものであります。

## (負債)

負債合計は、前連結会計年度末と比べて83,020千円減少し、4,012,158千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比べて302,305千円増加し、2,511,479千円となりました。これは主に、借入実行により短期借入金が300,000千円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べて385,325千円減少し、1,500,678千円となりました。これは主に、流動負債に振り替えたことにより長期借入金が288,880千円減少したことによるものであります。

## (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて48,193千円減少し、5,001,857千円となりました。これは主に円安の影響により為替換算調整勘定が増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことなどによるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当社グループは、研究開発活動の内容及び金額を特定のセグメントに関連付けることができないため、一括して記載しております。

(研究開発費の金額)

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は63,317千円であります。

(研究開発の内容)

当社は、独自開発した人工知能エンジン「KIBIT」について創薬支援、診断支援、経済安全保障、金融、人事・営業支援等さまざまなフィールドでの利便性をさらに向上させるため、新たなソリューションの拡充、製品の開発を行っております。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	72,000,000
計	72,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	39,353,862	39,355,362	東京証券取引所 グロース市場	単元株式数100株
計	39,353,862	39,355,362		

(注) 提出日現在発行数には、2023年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	21,000	39,353,862	5,906	3,048,223	5,906	2,779,973

(注) 新株予約権の行使により資本金が5,906千円、資本準備金が5,906千円増加しております。

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 39,284,500	392,845	
単元未満株式	普通株式 47,662		
発行済株式総数	39,332,862		
総株主の議決権		392,845	

【自己株式等】

2023年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社FRONTEO	東京都港区港南2-12-23 明産高浜ビル7F	700	0	700	0.00
計		700	0	700	0.00

(注) 24株は単元未満株式であるため、上記には含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,475,580	1,835,956
売掛金及び契約資産	1,019,848	956,747
商品	8	8
仕掛品	35,436	63,283
貯蔵品	2,603	3,211
未収入金	554,002	107,332
その他	611,598	552,956
貸倒引当金	35,941	34,949
<b>流動資産合計</b>	<b>3,663,138</b>	<b>3,484,547</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物附属設備（純額）	45,240	42,191
工具、器具及び備品（純額）	262,465	250,930
リース資産（純額）	10,418	9,343
使用権資産（純額）	109,096	77,152
<b>有形固定資産合計</b>	<b>427,221</b>	<b>379,617</b>
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	801,670	686,522
ソフトウェア仮勘定	599,760	589,224
のれん	1,345,594	1,410,822
顧客関連資産	1,218,755	1,275,456
その他	59,546	59,433
<b>無形固定資産合計</b>	<b>4,025,327</b>	<b>4,021,459</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	904,714	950,430
差入保証金	85,700	87,791
繰延税金資産	6,278	46,136
その他	32,847	44,033
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>1,029,541</b>	<b>1,128,391</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>5,482,091</b>	<b>5,529,468</b>
<b>資産合計</b>	<b>9,145,229</b>	<b>9,014,016</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	36,180	45,829
短期借入金	500,000	800,000
1年内返済予定の長期借入金	729,815	725,399
リース債務	194,913	117,512
未払金	257,412	182,063
未払法人税等	15,133	24,066
賞与引当金	137,391	90,112
訴訟損失引当金	21,849	28,998
その他	316,477	497,496
流動負債合計	2,209,173	2,511,479
固定負債		
長期借入金	1,644,976	1,356,095
リース債務	17,391	17,043
繰延税金負債	131,829	41,352
退職給付に係る負債	56,194	50,478
資産除去債務	35,612	35,708
固定負債合計	1,886,004	1,500,678
負債合計	4,095,178	4,012,158
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,042,317	3,048,223
資本剰余金	2,779,464	2,785,370
利益剰余金	2,116,714	2,569,793
自己株式	114	130
株主資本合計	3,704,952	3,263,670
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	584,909	617,379
為替換算調整勘定	567,709	908,296
その他の包括利益累計額合計	1,152,619	1,525,676
新株予約権	192,479	212,511
純資産合計	5,050,051	5,001,857
負債純資産合計	9,145,229	9,014,016

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
売上高	2,111,418	1,473,397
売上原価	1,124,896	930,332
売上総利益	986,522	543,064
販売費及び一般管理費	1,154,151	1,116,187
営業損失( )	167,629	573,122
営業外収益		
受取利息	435	635
受取配当金	19,800	27,000
訴訟損失引当金戻入額	14,399	-
為替差益	38,272	8,285
受取保険金	-	36,907
その他	945	832
営業外収益合計	73,852	73,661
営業外費用		
支払利息	5,579	5,257
シンジケートローン手数料	1,250	750
その他	1,304	1,104
営業外費用合計	8,133	7,111
経常損失( )	101,909	506,572
特別利益		
固定資産売却益	-	1,076
新株予約権戻入益	14,499	2,165
特別利益合計	14,499	3,241
特別損失		
減損損失	-	1 90,408
固定資産除却損	0	1,323
投資有価証券評価損	-	1,084
情報セキュリティ対策費	2 196,010	-
情報セキュリティ対策引当金繰入額	2 18,841	-
特別損失合計	214,852	92,816
税金等調整前四半期純損失( )	302,262	596,147
法人税等	43,197	143,068
四半期純損失( )	345,460	453,078
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	345,460	453,078

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
四半期純損失( )	345,460	453,078
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33,094	32,469
為替換算調整勘定	572,717	340,586
その他の包括利益合計	539,623	373,056
四半期包括利益	194,162	80,021
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	194,162	80,021

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間  
(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(会計方針の変更)

(米国財務会計基準審議会会計基準編纂書(ASC)第326号「金融商品 - 信用損失」の適用)

米国会計基準を適用している在外連結子会社において、「金融商品 - 信用損失」(ASC第326号)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

これにより、金融商品の測定方法を見直し、また金融資産について予想信用損失モデルによる減損を認識することが求められます。

本会計基準の適用については、その経過的な取扱いとして認められている会計方針の変更による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響もありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

用途	種類	場所	減損損失
事業用資産	ソフトウェア	日本	90,408千円

当社グループは、事業用資産について各事業セグメントを基礎としつつ、経営管理単位を勘案しグルーピングを行っております。

リーガルテックAI事業の自社利用ソフトウェアの一部について今後の利用停止が決定したことにより、減損の兆候を認識し、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として特別損失を計上しております。なお、回収可能価額は将来キャッシュ・フローが見込めないことから零として評価しております。

2 情報セキュリティ対策費及び情報セキュリティ対策引当金繰入額の内容は次のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

在外連結子会社におけるデータセンターへの不正なアクセスに伴う関連費用を計上いたしました。主な項目は、不正アクセスの原因・顧客案件データ等への影響に関する調査、復旧作業等に係る費用です。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	
減価償却費	207,626千円	減価償却費	176,192千円
のれんの償却額	44,963千円	のれんの償却額	47,656千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	275	7.00	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	AIソリューション	リーガルテックAI	計		
売上高					
外部顧客への売上高	530,238	1,581,180	2,111,418	-	2,111,418
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	530,238	1,581,180	2,111,418	-	2,111,418
セグメント利益又はセグメント 損失( )	6,541	174,170	167,629	-	167,629

(注) セグメント利益又はセグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	AIソリューション	リーガルテックAI	計		
売上高					
外部顧客への売上高	460,669	1,012,728	1,473,397	-	1,473,397
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	460,669	1,012,728	1,473,397	-	1,473,397
セグメント損失( )	229,819	343,303	573,122	-	573,122

(注) セグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「注記事項四半期連結損益計算書関係 1」に記載のとおり、当第1四半期連結累計期間に、「リーガルテックAI」において90,408千円の減損損失を計上しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に反映させるため、全社費用の配分基準の見直しを行っております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の費用配分方法に基づき作成したものを記載しております。



(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:千円)

		報告セグメント		
		AIソリューション	リーガルテックAI	計
ライフサイエンスAI		92,089		92,089
ビジネスインテリジェンス		435,327		435,327
海外AI		2,821		2,821
eディスカバリサービス	Review		378,475	378,475
	Collection,Process		168,723	168,723
	Hosting		736,345	736,345
	計		1,283,543	1,283,543
フォレンジックサービス			297,636	297,636
顧客との契約から生じる収益		530,238	1,581,180	2,111,418
外部顧客への売上高		530,238	1,581,180	2,111,418

(注) 当第1四半期会計期間において、ライフサイエンスAI分野の一部をビジネスインテリジェンス分野に移管したことに伴い、前年同期の数値を移管後の数値に組替えております。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(単位:千円)

		報告セグメント		
		AIソリューション	リーガルテックAI	計
ライフサイエンスAI		28,330		28,330
ビジネスインテリジェンス		431,015		431,015
海外AI		1,323		1,323
eディスカバリサービス	Review		296,990	296,990
	Collection,Process		78,851	78,851
	Hosting		480,603	480,603
	計		856,445	856,445
フォレンジックサービス			156,283	156,283
顧客との契約から生じる収益		460,669	1,012,728	1,473,397
外部顧客への売上高		460,669	1,012,728	1,473,397

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純損失金額( )(円)	8.79	11.52
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	345,460	453,078
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	345,460	453,078
普通株式の期中平均株式数(株)	39,313,800	39,337,914
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額(円)	-	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月14日

株式会社FRONTEO

取締役会御中

三優監査法人  
東京事務所

指定社員

公認会計士

米林 喜一

業務執行社員

指定社員

公認会計士

増田 涼恵

業務執行社員

指定社員

公認会計士

工藤 博靖

業務執行社員

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社FRONTEOの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社FRONTEO及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。